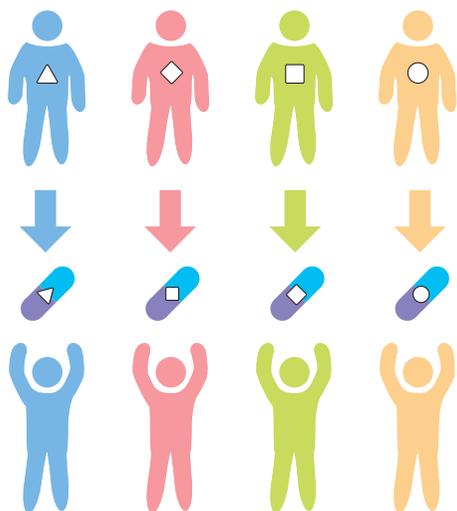


## ゲノム診断のメリット



進行がん、希少がんの遺伝子変化（遺伝子変異情報）から従来の標準療法以外の効果的な治療薬（分子標的薬を含む）を提案できる可能性があります。

患者さんのがん細胞内の遺伝子の変化を一度に複数調べます



患者さん一人ひとりの遺伝子の変化に応じた治療に役立つ薬の情報を探します

### ● 分子標的薬とは？ ●

がんは様々な遺伝子の変化を持ちます。がんに関連する特定の遺伝子変化を標的にした治療薬で、正常細胞への影響を少なく抑え、がんへの高い治療効果が期待されています。

## よくある質問

### Q 費用はどれくらいかかりますか？

A 検査には保険診療と自由診療（全額自己負担）で行われているものがあります。健康保険が適用される場合、検査費用は3割負担の方で168,000円をお支払いいただけます。「高額療養費制度」が利用できます。自由診療の金額についてはホームページをご覧ください。直接お問い合わせください。

### Q 保険診療での検査を受けるためにはどのような条件が必要ですか？

A DNAを抽出するために、保存状態のよがん組織が分量必要になります。検査が可能かどうかについては患者さんの主治医や当院の病理医と確認が必要です。

### Q 検査結果が返ってくるまでどれくらい時間がかかりますか？

A 検査の種類によりますが1ヶ月から2ヶ月程度かかります。

### Q 検査によってどれくらい治療薬が提示できますか？

A この検査によって新しい治療薬が提示できる可能性は10～20%と言われています。そのほとんどが保険適応外の治療となります。そのため臨床試験の紹介や、先進医療や患者申出療養などの制度の利用により治療を提案していきます。

### Q 私のがんは子どもに遺伝しますか？

A 生まれながらに持っている遺伝子の違いにより、がんになりやすい体質になることがあります。この検査を受ける数%の方にその可能性【遺伝性腫瘍】が判明することがあります。詳しくは、受診時に担当医より説明します。

### 【重要】本検査を受ける際の注意点

本検査を利用して、がんの診断や治療に有用な情報が必ずしも得られるとは限りません。また、本検査で、患者さんのがん細胞で起こっている遺伝子変異に対して効果が期待される薬剤が見つかったとしても、患者さんのがんに対してその薬剤が承認されていない場合\*、治療法として選択できないことがあります。

\*「保険診療で使えない薬剤」または「他のがんや病気では保険診療で使えるが、患者さんのがんでは使えない薬剤」を指します。

お問い合わせ窓口

弘前大学医学部附属病院

腫瘍センター・がん相談支援センター

〒036-8563 青森県弘前市本町53番地

TEL 0172-39-5174



## ゲノム診断による 新しいがん検査



がん遺伝子パネル検査

「ゲノム診断」により遺伝子情報を解析し一人ひとりにふさわしい治療薬を提案していきます。



弘前大学医学部附属病院

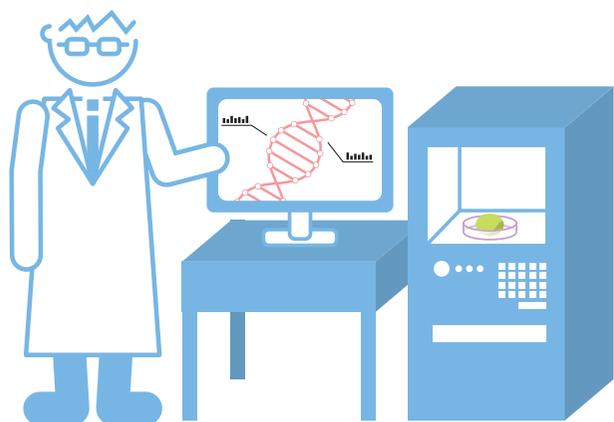
# がんゲノム検査



近年、がんは様々な遺伝子変異の蓄積で発生してくることがわかってきました。

さらに、その遺伝子変異の一部に対して、治療標的として様々な分子標的薬が開発されてきています。がんゲノム検査では治療標的となりうる遺伝子変異を検査し、臨床試験や未承認薬を含めて、より効果的な治療薬候補の提案を目指します。

また、現在有効な治療法が確立していない腫瘍のがんゲノム結果が国レベルで集積されることで、新たな治療方法の開発につながることも強く期待されています。



## 保険診療による がん遺伝子パネル 検査の流れ

### STEP 1 外来受診（1回目）



#### 検査の説明と同意書の署名

検査の目的や検査結果の流れなどについて説明を聞いていただき同意書に署名をいただきます

### STEP 2

検査期間  
1週間

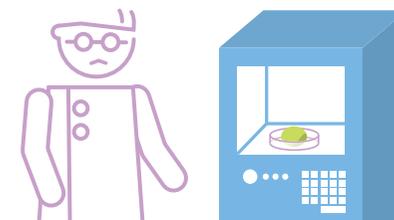


#### 検体の検査

患者さんの検体が検査に適しているか病院内で確認します

### STEP 3

検査期間  
1ヶ月半ほど



#### 検体の検査

検査会社に検体を提出し検査を開始します

### STEP 4

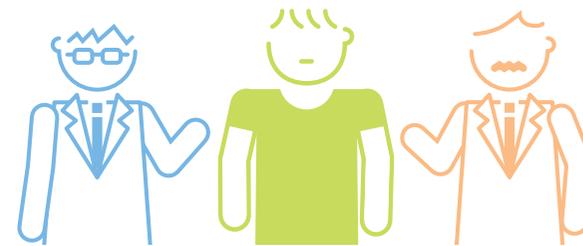


#### 検査結果の検討

当院の専門家によるカンファレンスによって結果について話し合い治療方法等を検討します

### STEP 5

#### 外来受診（2回目）



#### 検査結果の説明

検査の結果や今後の治療について説明します